



2021年12月16日

会社名 新田ゼラチン株式会社
代表者名 代表取締役社長 尾形 浩一
(コード番号：4977 東証第一部)
問合せ先 取締役執行役員 長岡 令文
管理本部長
電話番号 072(949)5381

新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書

当社は、2022年4月に予定される株式会社東京証券取引所の市場区分の見直しに関して、本日プライム市場を選択する申請書を提出いたしました。当社は、移行基準日時点（2021年6月30日）において、当該市場の上場維持基準を充たしていないことから、下記のとおり、新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書を作成しましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準の適合状況及び計画期間

当社の移行基準日時点におけるプライム市場の上場維持基準への適合状況は、以下のとおりとなっております。流通株式時価総額及び1日平均売買代金については基準を充たしておりません。当社は、2021年5月13日にお知らせした中期経営計画（2022年3月期～2024年3月期）の結果を公表する事業年度末の2025年3月31日までに上場維持基準を充たすための取り組みを進めてまいります。

プライム市場上場維持基準適合状況

	株主数	流通株式数 (単位)	流通株式 時価総額 (億円)	流通株式比率 (%)	1日平均 売買代金 (億円)
当社の状況 (移行基準日時点)	9,893	97,419 単位	63.1 億円	53.0%	0.09 億円
上場維持基準	—	20,000 単位	100 億円	35%	0.2 億円
計画書に 記載の項目	—	—	○	—	○

※当社の適合状況は、東証が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

2. 上場維持基準の適合に向けた取組の基本方針、課題及び取組内容

プライム市場上場維持基準の適合に向けた流通株式時価総額及び1日平均売買代金の上昇にかかる具体的な取り組みについては、添付の「プライム市場の上場維持基準の適合に向けた計画書」に記載のとおりです。

以上

プライム市場の上場維持基準の 適合に向けた計画書

2021年12月16日



新田ゼロチン株式会社

1. 適合状況及び計画期間
2. 基本方針
3. 課題及び取り組み内容
4. 施策の検証

1

1. 適合状況及び計画期間

(1) 上場維持基準の適合状況

	当社	上場維持基準
● 流通株式時価総額	63億円	100億円
● 1日平均売買代金	9百万円	20百万円

(2) 計画期間

現中期経営計画期間(2022年3月期～2024年3月期)の結果を公表する事業年度末の2025年3月31日まで

2

基本方針

- ① 中期経営計画達成による収益性の向上と確実な成長
- ② 広報・IR活動による認知度向上
- ③ 流動株式の増加による流動性の向上

3

(1) 企業価値向上による時価総額引き上げ

- A) 中期経営計画の確実な遂行
- B) サステナビリティ活動の一層の推進
- C) 株主還元の向上

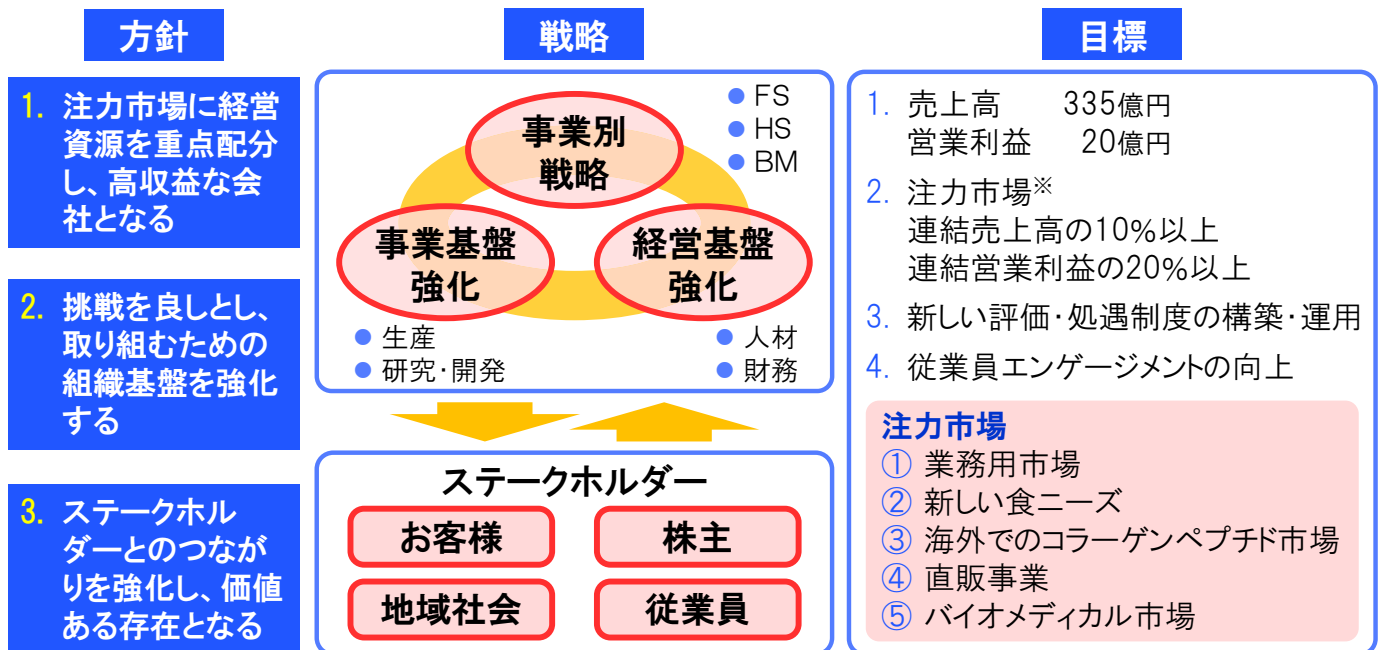
(2) 株式売買の活性化、認知度向上と流動性向上

- A) 広報・IR強化による認知度向上
- B) 持合い株見直しによる流動性向上

4

A) 中期経営計画の確実な遂行

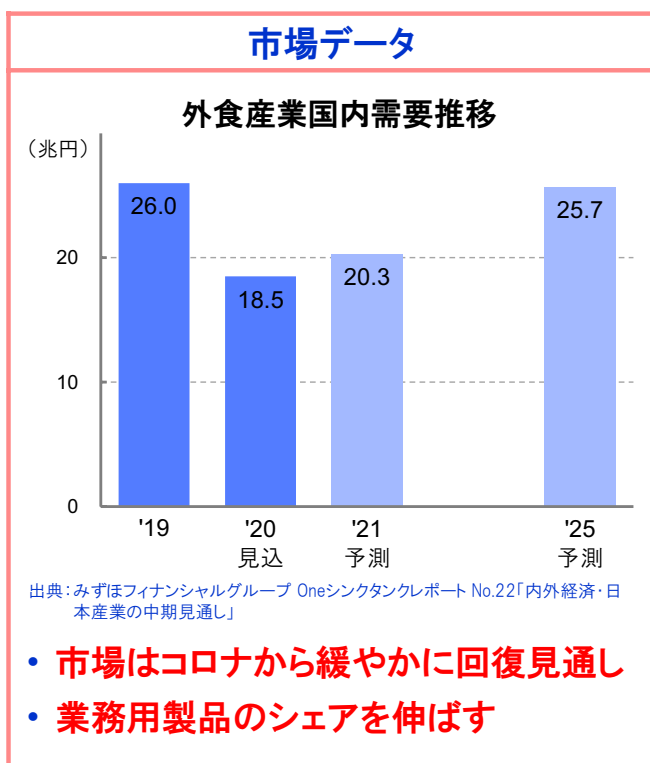
中期経営計画(2022年3月期～2024年3月期)に沿って進める



FS: フードソリューション、HS: ヘルスサポート、BM: バイオメディカル

5

① 業務用市場



想定されるお客様のニーズ

- 消費者の食の多様化や健康意識の高まりへの対応
- 構造的な人手不足を背景とした省人化(手間がかからない、作り置き可等)
- 新しい味や食感を通じた消費者の食体験の充実
- withコロナの新しい生活様式への適応

当社の強み

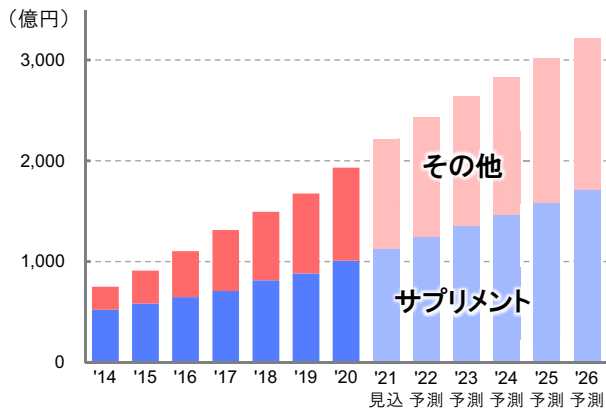
- 国内唯一のゼラチンメーカーとして様々な加工が可能
- ゼラチンという動物性原料のみならず、植物原料も組み合わせた様々な食感の提案によるメニューの提供
- 国内有名シェフとのネットワークによる最先端の食ニーズとメニューの提供

6

② 新しい食ニーズ

市場データ

たんぱく質補給食品国内市場規模推移



出典：富士経済「プロテインブームによる商品開発競争とチャネル間競争が進むたんぱく補給食品市場 2021」

- 当社にとっては新しい市場だが市場規模は急速に拡大中

想定されるお客様のニーズ

- 健康維持におけるタンパク質摂取の重要性認識の高まりへの対応
- アスリートの筋肉修復・回復や若年層の美しい筋肉作りニーズの取り込み
- 植物性素材の市場拡大への対応
- withコロナの新しい生活様式への適応

当社の強み

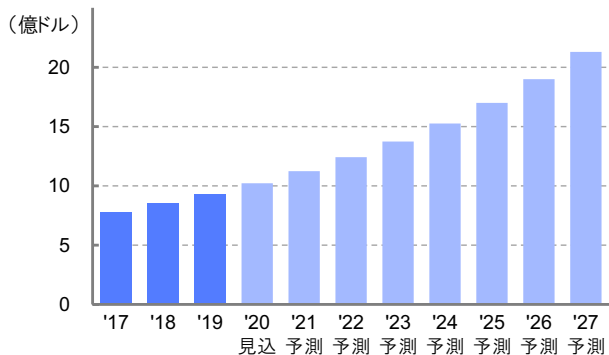
- コラーゲンは良質なタンパク源かつ優れた溶解性から摂取が容易であること
- 長年の研究に基づくコラーゲンに関する知見
- お客様のあらゆる要望に対応可能な製品開発力

7

③ 海外でのコラーゲンペプチド市場

市場データ

世界のコラーゲンペプチド市場推移



出典：The Insight Partners「Global Collagen Peptide Market to 2027」

- グローバル市場は今後も高い成長を続ける見通し
- 当社は北米とアジア中心に拡販方針

想定されるお客様のニーズ

- 北米におけるコラーゲンのアンチエイジング訴求への関心の広がり
- アジアにおける美容意識の向上を背景としたコラーゲン需要拡大への対応
- 安全・安心な製品と機能性担保ニーズの高まり

当社の強み

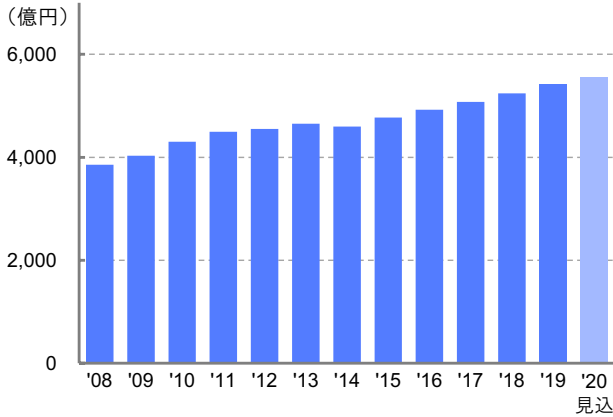
- 長年の研究に基づくコラーゲンペプチドに関するデータの蓄積
- 日本のコラーゲントップメーカーとしての信頼性

8

④ 直販事業

市場データ

通信販売健康食品の市場規模推移



出典:TPCマーケティングリサーチ「2020年 健康食品の通販事業戦略調査」

- 市場は緩やかに成長見込み。内、コラーゲン関連市場の推定規模は600億円
- 当社は今期よりBtoCにも注力

想定されるお客様のニーズ

- 健康と若々しい美しさの維持
- フレイル予防による健康寿命の延伸
- スポーツニュートリションの広がり

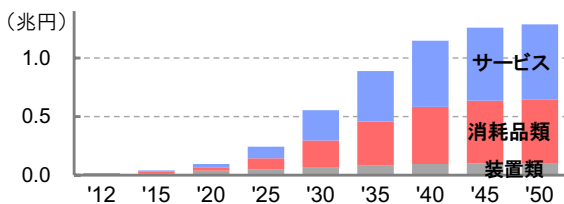
当社の強み

- コラーゲンに関する深い知見
- コラーゲンペプチドの機能性に関するトップの実績(特許件数51件、文献数33件)
- お客様に寄り添ったサービス(既存顧客の歩留77%)

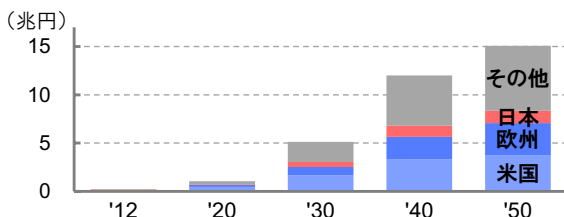
⑤ バイオメディカル市場

市場データ

再生医療周辺産業の市場規模成長予測(日本)



再生医療周辺産業の市場規模成長予測(世界)



出典: 経済産業省「再生医療・遺伝子治療の産業化に向けた基盤技術開発事業複数課題プログラムの概要」

- 中長期的に大きな成長が見込める市場
- ニッチプレイヤーとして確実に足場を固める

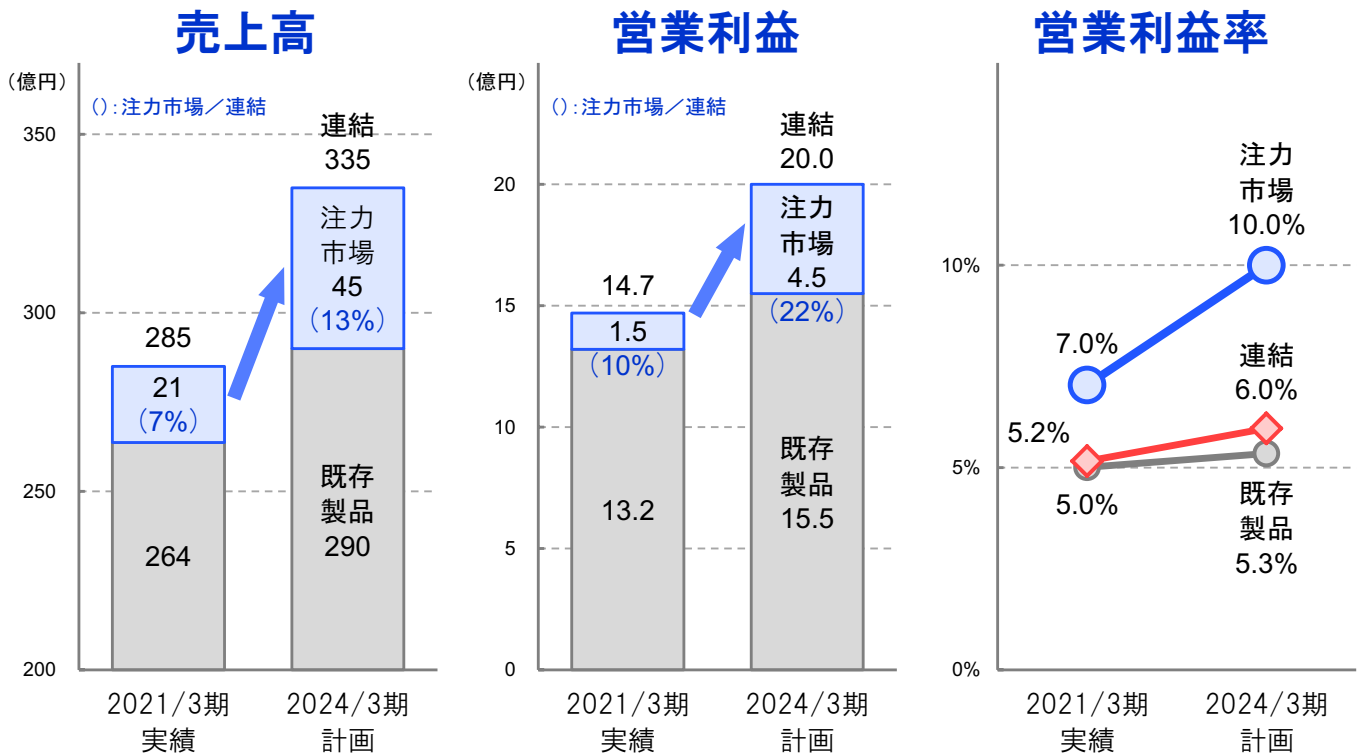
想定されるお客様のニーズ

- 厳格な医療基準に耐えうる安全性
- 様々な形状に加工できる生体材料
- 効率的な細胞輸送
- 効果的な細胞培養

当社の強み

- 生体由来の物質であるコラーゲンの優位性(生体親和性、生体吸収性)
- 国内トップゼラチンメーカーとしての安全に関する信頼性
- 長年のコラーゲン・ゼラチン研究による知見の蓄積

⑥ 中期経営計画の業績目標



※ 2021/3期のデータは、接着剤事業譲渡(2021年2月)により接着剤事業分を除く

B) サステナビリティ活動の一層の推進

サステナビリティに関する取り組み



重点活動

<p>社会の課題解決に向けて</p>	<p>取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化社会での課題解決 人々の健康維持・増進 食における課題解決 医療分野での課題解決 	<p>関連SDGs</p>
<p>環境改善への取り組み</p>	<p>取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量削減 水使用量の削減 副産物による環境改善 	<p>関連SDGs</p>
<p>より良い職場の実現と人材育成</p>	<p>取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティ推進 労働安全衛生 従業員の健康管理支援 人材育成 ワークライフバランスの推進 	<p>関連SDGs</p>
<p>地域社会との共生と貢献</p>	<p>取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域清掃、グラウンド解放 工場見学 各種スポーツ支援 	<p>関連SDGs</p>

- 持続可能な環境や社会を実現するため、ISO26000の中核主題に対応した6つの方針として制定
- 全てのステークホルダー(お客様、株主、地域社会、従業員)との関係強化のもととなる考え方

C) 株主還元の向上

配当方針の見直し

従来の安定配当から

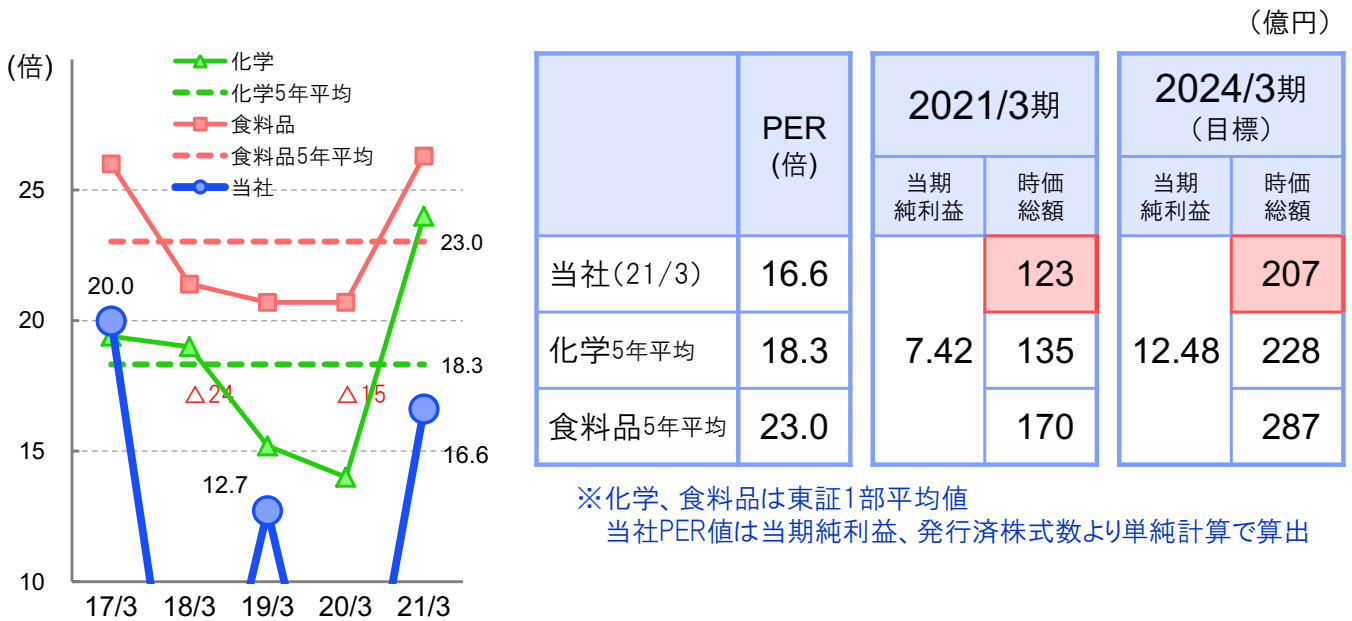


株主資本配当率(DOE)1.5%以上を目指す

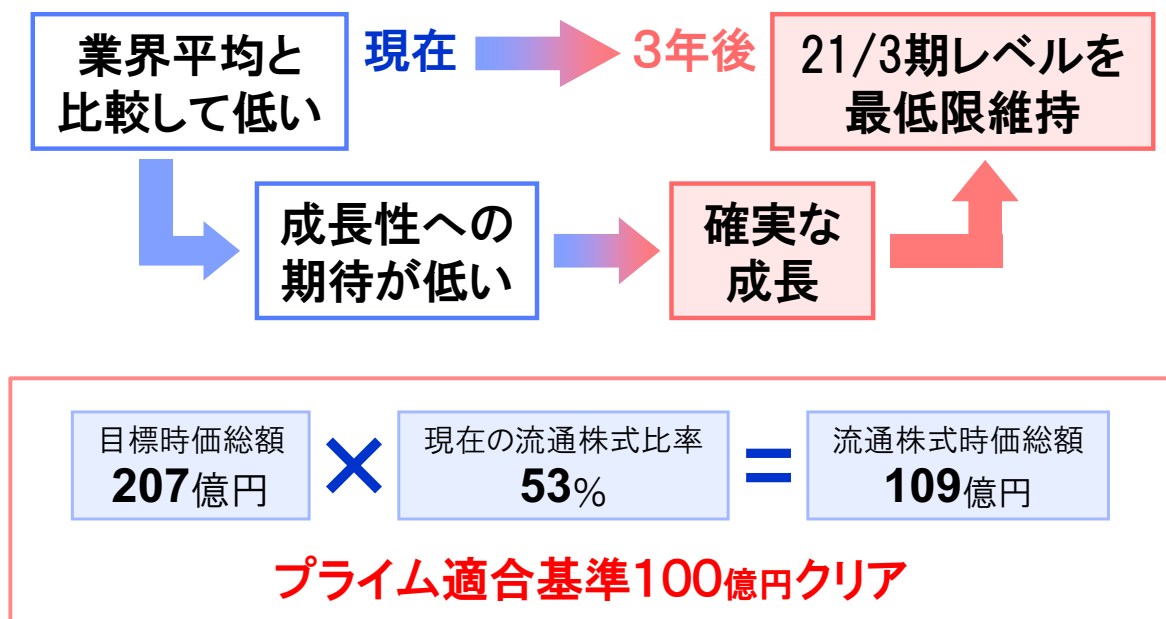
(2) 株式売買の活性化、認知度向上と流動性向上

課題	施策				
<ul style="list-style-type: none"> 積極的な広報・IR活動による認知度向上 	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="643 1480 751 1585">広報</td> <td data-bbox="751 1480 1399 1585"> <ul style="list-style-type: none"> 人々のQOL向上に貢献する企業としてのブランドイメージ構築 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="643 1585 751 1832">IR</td> <td data-bbox="751 1585 1399 1832"> <ul style="list-style-type: none"> 投資家にとって利便性の良い説明機会の増加(オンラインでの決算説明会、投資家向け説明会の開催) IRフェアへの参加による幅広い投資家へのアプローチ </td> </tr> </table>	広報	<ul style="list-style-type: none"> 人々のQOL向上に貢献する企業としてのブランドイメージ構築 	IR	<ul style="list-style-type: none"> 投資家にとって利便性の良い説明機会の増加(オンラインでの決算説明会、投資家向け説明会の開催) IRフェアへの参加による幅広い投資家へのアプローチ
広報	<ul style="list-style-type: none"> 人々のQOL向上に貢献する企業としてのブランドイメージ構築 				
IR	<ul style="list-style-type: none"> 投資家にとって利便性の良い説明機会の増加(オンラインでの決算説明会、投資家向け説明会の開催) IRフェアへの参加による幅広い投資家へのアプローチ 				
<ul style="list-style-type: none"> 成長性及び収益力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 注力市場への経営資源の重点配分 				
<ul style="list-style-type: none"> 流動株式数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 金融機関・取引先との持合い見直し 				

① PER (株価収益率)

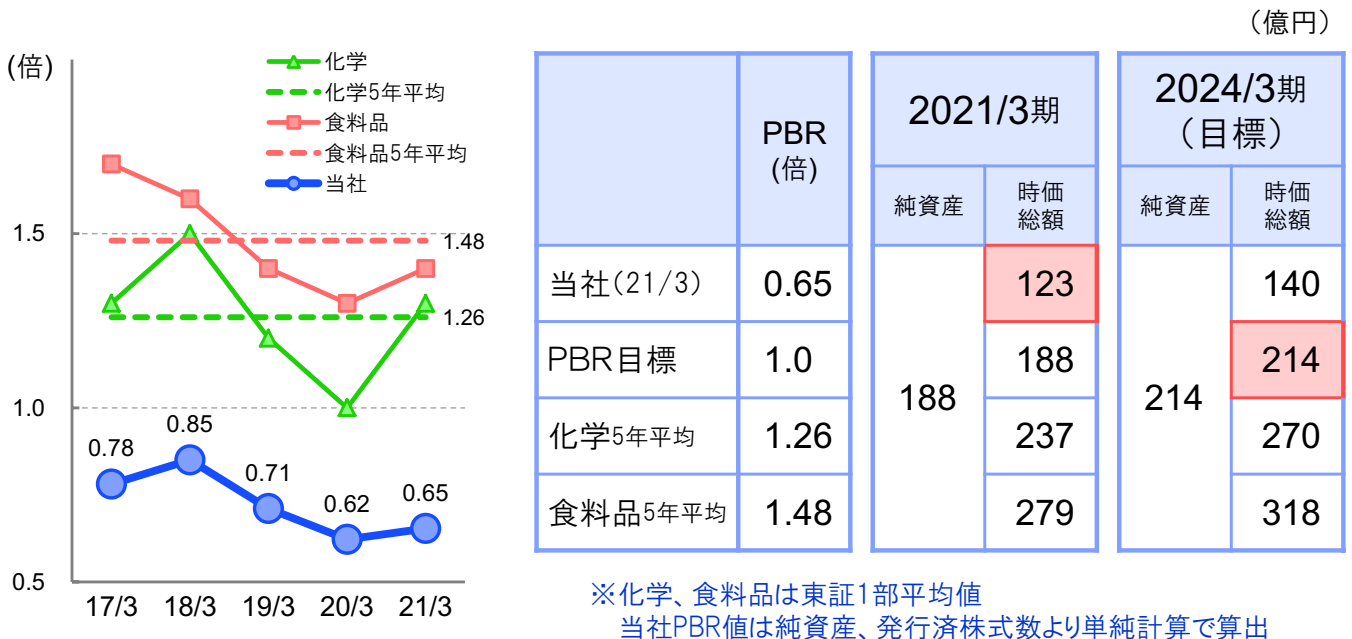


① PER (株価収益率)

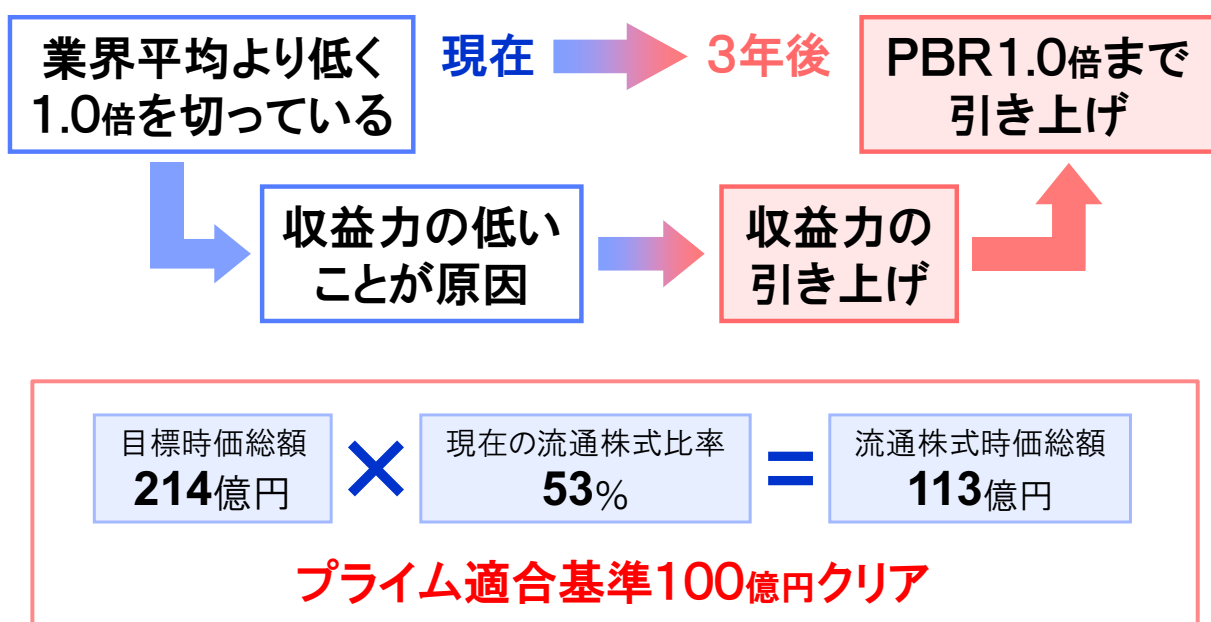


※ 2024/3期のPERが現状と同程度でも中期経営計画達成により1株当たりの当期純利益(EPS)は増加するため、流通株式時価総額は上場維持基準を上回る

② PBR (株価純資産倍率)



② PBR (株価純資産倍率)



※ 中期経営計画達成でPBRが1.0倍まで向上することにより、流通株式時価総額は上場維持基準を上回る

③ 1日平均売買金額

